

令和6年11月14日

三浦市議会議長 出口 眞琴 様

都市民生常任委員会
委員長 神田 眞弓

令和6年度 都市民生常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和6年10月22日（火）・23日（水）

2. 視察地

岩手県遠野市 10月22日

岩手県北上市 10月23日

3. 視察参加者

都市民生常任委員会

委員長 神田 眞弓

副委員長 石橋むつみ

委員 石崎 遊太

委員 下田 剛

委員 出口 景介

委員 森谷久一郎

随 行 幸田 友樹

4. 視察事項

◇ 岩手県遠野市

遠野市総合食育センターについて

◇ 岩手県北上市

北上市保健・子育て支援複合施設hoKkoについて

【10月22日(火)】

(遠野市HPより)

■ 岩手県 遠野市の概要

- ・ 面 積 825.97 平方キロメートル
- ・ 人 口 24,080 人 (令和6年10月1日現在)
- ・ 世 帯 数 10,677 世帯 (〃)
- ・ 産 業 別 第1次産業 (16.7%) 第2次産業 (32.0%)
第3次産業 (51.3%)
- ・ 市制施行 平成17年10月1日 (旧遠野市、宮守村が合併)



■ 位置・地勢

遠野市は、北上高地の中南部に位置し、東は釜石市と上閉伊郡大槌町に、南は奥州市と気仙郡住田町に、西は花巻市に、北は宮古市に接しています。市役所から県都盛岡市へ約70km、仙台へ約180km、首都東京へ約530kmの距離に位置しています。

標高1,917mの早池峰山を最高峰に、標高300m～700mの高原群が周囲を取り囲んでいます。市域の中央に遠野盆地があり、中心市街地が形成されています。また、北上川の支流である猿ヶ石川は、早瀬川、小友川、宮守川、達曽部川など大小多くの河川と合流しながら西走し、それらの河川沿いを中心に耕地と集落が形成されています。

土地の多くは山林となっており、田畑は8.1%、宅地は1.2%となっています。



■ 産業

冷涼な気候と豊かな自然環境を生かした農林業を基幹産業とし、米を中心に、野菜、ホップや葉たばこなどの工芸作物、家畜が複合経営されており、乗用馬生産地として知られています。

また四季が織り成す豊かで美しい広大な自然は、日本の原風景として全国の多くの人々に親しまれ、『遠野物語』に代表される歴史と文化を活かした観光・交流人口の拡大に取り組んでいます。

遠野市総合食育センターについて

- 視察目的

三浦市の学校給食の歴史は古く県内でも早くから完全給食を実施し、食育推進や地産地消の取り組みなどを行っていますが、施設の老朽化や児童生徒の減少などの状況から現在の2か所の調理場を1つにまとめ効率的な運用を図る必要が生じています。そのような中、学校給食のみならず高齢者への配食や災害時の炊き出し機能など複合的機能を備えた「遠野市総合食育センター」を視察し今後の参考とすることを目的とします。

- 視察先対応者

進 行：遠野市議会事務局 奥寺 国博局長

挨 拶：遠野市議会教育民生常任委員会 佐々木 恵美子委員長

説明員：遠野市教育委員会学校給食センター 佐々木 修所長

- 視察訪問先 遠野市総合食育センター（愛称：ぱすぽる）

- 視察概要

遠野市総合食育センターは、遠野市役所から北へ車で7分ほどの位置にあります。

従前の2つの学校給食センターが老朽化し施設の改善が求められていましたが、児童生徒の減少により従来どおりの学校給食センターの整備では余剰が生じるという課題を抱えていました。そこで、学校給食だけに特化するのではなく、「高齢者への配食サービス」、「食育の推進」、「地産地消の推進」、東日本大震災の経験から「災害時の炊き出し」機能を備えた市民の健康を「食」で支える拠点施設として整備されました。

平成15年から計画を練り整備地や整備手法等を検討、平成22年には各種団体から推薦された委員による「遠野市総合食育センター整備市民懇談会」を設置し、市民などの意見を計画に反映させ平成25年の開所に至っています。

遠野市学校給食センターは「学校給食エリア」、「総合給食エリア」、「食



育推進エリア」に分けられ連携をしつつそれぞれの機能を備えています。
また、施設全体でオール電化方式を採用しているのが特徴です。

【施設の機能等】

- ・ 学校給食センターは、1日あたり2,400食分の能力があり市内小中学校（16校）の児童生徒の給食を作っています。調理は炊飯、汁物、煮物、揚げ物、焼き物、和え物など各部屋で分かれて行います。また、災害時は3日間利用可能な自家発電設備があり炊き出しを行う機能があります。
- ・ 高齢者宅配サービスは、遠野市社会福祉協議会が運営する高齢者の見守りを兼ねて行います。遠野市「食」の自立支援事業（受託事業）の他、対象枠を拡大した自主事業を行い、合計で年間8,000食前後の数の弁当の提供があります。
- ・ その他、施設には会議室、調理実習室があり一般に貸し出しています。市民の集まりや調理実習などに利用されています。



■ 主な質疑応答

Q：建築費用と財源について

A：全体事業費は13億円で、社会資本整備交付金4億円、過疎費8億円、市費1億円であった。文部科学省の補助は受けていない。



Q：運営方式について

A：学校給食の運営方式は、調理、配達は委託方式。高齢者宅配サービスについては、社会福祉協議会が運営している。

Q：職員の体制について

A：市職員2名、栄養教諭2名（県職員）、受託業者36名
高齢者宅配サービスは（社）遠野市社会福祉協議会2名、調理宅配ボランティア13名程度

Q：地場産物の使用割合を高めるため、どのようなスキームで調達、工夫をしているか

A：地域の食文化を育み農畜産業を支えることから、学校給食に使用する遠野産食材の割合を総合計画の指針に定めている。遠野市産直組合、遠野伝統野菜研究会と連携している。目標66%に対し、令和5年度は55.6%（米100%、野菜27.6%）。気候の影響と農家の高齢化が要因となり前年度を下回った。

Q：調理実習室の使用実績について

A：民間事業所が利用したほか、試食会、施設見学、視察、関係機関・センター内の会議など。会議室と兼用利用できることから、会議室としての利用が多い。

Q：学校給食の市民周知について

A：インスタグラムを令和6年4月からアップし子どもたちがどんな給食を食べているか紹介している。また、1名から申し込み可能な試食会を実施している。

Q：高齢者宅配サービスの利用実績、利用料金、運営スキームについて

A：高齢者の自立した生活を継続させるため、「食」に関するサービスの調整をはかり、調理が困難な高齢者や、栄養状態の改善が必要な高齢者に対して、定期的な訪問を行っている。

対象者は、市内に住所を有する 65 歳以上の単身世帯、高齢者のみの世帯及びこれに準ずる世帯で、支援を要すると認められた方。

利用料は 1 食あたり 500 円、週 3 回まで。1 日 30 人前後、要件から外れた方は自主事業で対応している。



【10月23日（水）】

（北上市HPより）

■ 岩手県 北上市の概要

- ・ 面積 37.55 平方キロメートル
- ・ 人口 91,118 人（令和6年9月30日現在）
- ・ 世帯数 41,866 世帯（〃）
- ・ 産業別 第1次産業（5.7%） 第2次産業（37.1%）
第3次産業（57.1%）
- ・ 市制施行 平成3年4月1日（旧北上市、和賀町、江釣子村が合併）



■ 位置・地勢

北上市は北上盆地のほぼ中央に位置しています。北上川と和賀川が合流する肥よくな土地に美しい田園地帯が広がり、西に奥羽山脈、東に北上山地の美しい山々が連なる豊かな自然に恵まれています。



古くから交通の要衝として栄え、国道4号、JR東北本線の南北幹線と、国道107号、JR北上線の東西幹線が交差して旧来の市の骨格はつくられました。現在では東北新幹線、東北縦貫自動車道、東北横断自動車道釜石秋田線などの高速交通体系も整備され、「北東北の十字路」として交通の利便性が高まっています。

■ 産業

稲作、野菜、花き、畜産など、さまざまな生産に取り組み、総合食料供給基地を自負する岩手県において、その拠点として重要な役割を担っています。特産品として二子さといも、グリーンアスパラガス、リンゴ、大豆などが出荷されています。また、ブランド牛「きたかみ牛」は日本でも最高水準のおいしい牛肉として評価されています。

工業では岩手県内ではもっとも早い時期から工業団地造成や企業誘致に取り組んできた結果、現在は半導体や自動車のほか、機械、パルプ、食品、医薬品など、幅広い業種の企業が立地する県内トップの工業集積を誇る都市に発展しています。

北上市保健・子育て支援複合施設 hoKko について

● 視察目的

出生率の低下、若年層の流出による人口減少が大きな課題となっている本市において、子どもたちの育成及び子育て世帯への支援施策はますます重要なものとなっております。今回は令和3年4月に開所した「北上市保健・子育て支援複合施設 hoKko」について、施設の概要や取組みについて視察することといたしました。

● 視察先対応者

進 行：北上市議会事務局 阿部 哲也課長補佐

挨 拶：北上市議会 高橋 孝二副議長

説明員：北上市こども部健康づくり課 熊谷 真由美係長

北上市こども部健康づくり課 佐藤 淳一氏 ほか

● 視察訪問先 北上市保健・子育て支援複合施設hoKko

● 視察概要

北上市保健・子育て支援複合施設hoKkoは、北上市役所から徒歩5分ほどに位置し民間の商業施設の一部を取得し整備されたものです。

その立地から買い物などの「ついでに」の利用が可能であること、屋内で遊べる・健診が受けられる大変利便性の高い施設となっています。また、子育てのワンストップサービスを実施、徹底したDXの推進も特徴となっています。



【主な施設】

- ・ おやこセンター…小学校入学前までの子どもを対象に1階（地域子育て支援センター）は保育士が常駐し、子育てに関する相談や親子で楽しめるイベントを行っている。2階（なみなみパーク）はネット遊具や滑り台がある屋内の遊び場となっている。
- ・ けんしんホール、健診ルーム…成人や乳幼児の健康診査、がん検診の外、子育て教室などを行う。けんしんホールには検診車が直接入れる。

- ・ ほっこひろば、ふれあいホール…多人数を収容するイベント、絵画等の展示に使用することができる。
- ・ だんだんベンチ…天井備え付けのスクリーンを活用した、小規模な上映会に利用できる。
- ・ もぐもぐキッチン、もくもぐテーブル…料理教室などで利用可能なレンタルキッチン。離乳食教室も実施している。
- ・ ほいくルーム（一時保育室）…生後6か月から就学前までの児童を対象に家庭での保育が困難になったとき、一時預かりをする施設。
- ・ ほっこオフィス・オフィスカウンター…健康づくり課、子育て支援課、子育て世代包括支援センター事務室と保健や子育てに関する手続きや相談ができる窓口。
- ・ まなびルーム…会議などが開催できる小規模スペース。



■ 主な質疑応答

Q：総事業費と財源について

A：整備事業費は16億円程度。
財源は社会資本整備総合交付金、公共施設等適正管理推進事業債、公共施設整備等適正管理推進事業債の合計11億円程度。



Q：hoKkoを開設した経過について

A：①従前の施設の老朽化。②母子保健法改正により、「子育て世代包括支援センター」を設置する必要があった。③雨天時や降雪時にこどもが利用できる室内遊び場の設置を望む声が多かった。以上3つの理由から平成29年10月に着手した。（既設の保健センター2か所、子育て支援センター、市民交流プラザ（貸館機能）の移設と室内遊び場の新設、子育て関連部署の集約を行った）

Q：整備手法について

A：デザイン会議を2年間で18回開き、意思決定を行った。設計はプロポーザルにて選定、建設・設備は一般競争入札で決定。
※デザイン会議：新しいセンターの機能、規模、立地、建築設計、運営、活用を考える会議。学識経験者（都市計画と保健分野）、有資格者（1級建築士、助産師）、市民、市職員で構成、全12名

Q：運営手法について

A：保健センター、子育て支援センター、貸館の3つは直営、一時保育、屋内遊び場の2つは業務委託。
施設の受付案内業務と警備業務は民間へ業務委託、施設の維持管理と清掃業務は包括管理にて行っている。

Q：職員体制について

A：健康こども部（健康づくり課、子育て支援課、こども家庭センター）として、会計年度任用職員を含め100人程度の職員が配置されている。乳幼児健診、成人検診、歯科指導、栄養相談等の業務があるため保健師・看

護師・栄養士等の専門職の会計年度任用職員おり、人数が多い。

Q：市内保育所の数および待機児童数・保留児童数

A：公立保育所6か所、私立保育所7か所、認定こども園11か所、小規模保育事業所18か所、景42か所。

未入所児童は64人、うち待機児童41人（すべて0歳児、認可施設の空き無し）、その他23人（利用希望施設に空きがないため入所できていない）

Q：室内遊び場、一時保育の利用実績

A：室内遊び場（なみなみパーク）は3,409人、一時保育（ほいくルーム）は701人（いずれも令和5年度）



行政視察の成果について

都市民生常任委員会行政視察

都市民生常任委員長 神田 眞弓

10月22日（火） 遠野市

遠野市は西暦800年頃より集落が営まれ薄政時代には宿場町として栄え明治、昭和、平成の大合併を経て現在の遠野市が誕生した。

冷涼な気候と豊かな自然環境を生かして米を中心にホップや乗用馬生産地として知られ「遠野物語」に代表される歴史と文化を活かした観光に取り組んでいる。



遠野市総合食育センター（愛称ぱすぼる）

やさしい木のぬくもりのある外観の中にある学校給食センターでは、市内の全小中学校に約1,700食を提供しています。

季節に応じた遠野産の食材を使用した給食メニューや児童生徒の希望メニューの提供も行い充実を図り、全国学校給食甲子園にも出場して素晴らしい成績をおさめています。

子どもたちが食べている給食をInstagramに載せたり、ホームページを活用し積極的に情報発信に努めています。

総合食育センターには、高齢者の見守りを兼ねた宅配弁当の提供や各種サテライトに弁当を提唱する事業も行っています。

東日本大震災の時には毎日多くの炊き出しをし、近隣自治体に届けた経験から大規模災害時に3日間利用可能な自家発電設備も備えています。

素晴らしいセンターを視察することができました。

準備からお世話になりました遠野市議会佐々木委員長はじめ、事務局長、センター所長には大変貴重なお時間をありがとうございました。

三浦市も老朽化した学校給食センターが一日も早く設備されるよう努めたいと思います。

10月23日（水） 北上市

人口91,000人の新幹線、高速道路も開通し利便性もよく桜の名所「展勝地」も有名で花見の頃は多くの観光客で賑っている。

音楽、スポーツ、教育にも力を入れ合唱・吹奏楽コンクールでも全国一位など数多くの受賞をしている。スポーツでは全日本高校ラグビー大会に出場している。

北上市保健・子育て支援複合施設ho（ほけん）K（きたかみ）ko（こそだて）

令和3年4月北上市の健康と子育てを支える拠点として開所、商業施設と一体的立地になり買い物ついでの利用可能で、非常に利便性が高い施設であります。

① ho ほけんとあるように特定健診・がん検診の時に検診車が屋内に入って悪天候でも受診できるようになっています。保健センター機能もあり、健康相談事業も行っています。

② ko こそだてスペースは、一時保育も低料金で利用でき、雨、雪、土日祝日でも利用できる屋内遊び場も遊具も充実し、建物全体が木のぬくもりを感じ、非常に落ち着き、保護者同士の交流の場や乳幼児健診専用のスペース子育て教室も開催され、子育ての手続きが一箇所でできるワンストップサービスを実現していました。

hoKkoは今市民が求めている健康・子育ての充実を十分に満たしている場所だと思います。

大変お忙しい中、北上市健康づくり課の職員さんはじめ、子育て支援の職員さんありがとうございました。

三浦市は子どもの遊び場や子育ての施設など、子育て環境の整備が遅れています。将来を担う子ども達のために一日も早い環境整備の実現を目指したいと思います。

行政視察報告

副委員長 石橋 むつみ

1 遠野市総合食育センター（愛称 ぱすぽる）

新幹線の新花巻駅で釜石線に乗り換え、遠野駅へ。昼間は特に本数の少ないローカル線でした。三浦市一行に影響は無かったのですが、遠野駅より先は、土砂崩れで不通とのこと。バスによる乗客の振替輸送をしていました。

遠野駅から、ジャンボタクシーで、遠野市総合食育センターへ直行。

学校給食センター佐々木所長、教育民生常任委員会佐々木委員長、奥寺議会事務局長などのみなさんから、丁寧な説明を受けました。

前もって、質問事項などを、議会事務局を通じて遠野市の担当の方々にお伝



えしてあったので、質疑もより深まり、センター内の見学もすることができたのは良かったと思います。

なぜ、学校給食センターで、高齢者の宅配サービスも可能なのだろう？というのが当初は疑問でした。

遠野市と宮守町の各学校給食センターの老朽化と建替えの課題、両自治体の合併、などを経て、構想が練られ、施設の整備方針や運営・運用の方向性が検討され、「学校給食」だけでなく、「高齢者への安否確認を兼ねる配食サービス」「食育の推進」「地産地消の推進」「災害時の炊き出し」など市民の健康を「食」で支える『食育拠点施設』をと計画が固まっていく経過を伺って疑問は解けました。

2010（H22）年には行政の担当・学校・食育に関わる人々、福祉関係者、などなど市民も巻き込んで30人で「遠野市総合食育センター整備市民懇談会」を設置し、部会ごとに、あるいは全体で検討の会議を持ち、事業内容に意見を反映させたとのことでした。

全体事業費13億円の内訳は、国土交通省の「社会資本整備交付金」4億円、「過疎債」8億円、市債1億円とのことでした。

総合食育センターの場内では、学校給食のラインと、高齢者への宅配弁当を調理する総合給食のラインとは、交錯せずに別々のライン・エリアに分かれています。そのほかに、食育事業のための会議室と調理実習室、災害時のための自家発電設備ほかが設置されていました。

遠野市学校給食センターは、2023（R5）年、2024（R6）年と続けて、《全国学校給食甲子園》にエントリーし、昨年は、山菜ひつつみなど郷土料理や地元食材を生かした献立で全国3位相当の「21世紀構想研究会特別賞」を受賞しています。

今年も、早池峰菜めしなどの郷土料理と地元食材を使った献立で、第4次選考をクリアして、12月の高位発表が期待されています。担当の方が代わっても自慢の献立は引き継がれているのですね。

遠野市の「食」に携わる方々（当日お会いできなかった各分野の市民の方も含めて）の熱意に感じ入った視察でした。三浦市の今後に活かすためには…課題は様々出てきそうです。

視察にあたって、丁寧に対応してくださった皆様、ありがとうございました。

2 北上市保健子育て支援複合施設hoKko

ほけん：hoken、きたかみ：Kitakami、こそだて：kosodateの頭文字をつなげて、ほっこhoKkoなのだそうです。

視察2日目は、北上市の健康と子育てを支える拠点・hoKko（ほっこ）を訪問しました。

2021(R3)年4月5日に開所した、①保健センター ②貸館 ③子育て支援センター ④一時保育 ⑤屋内遊び場 の複合施設です。

①②③は市の直営、④⑤は業務委託で運営しているとのことでした。

北上市でも遠野市と同じように、市の健康管理センターと江釣子保健センター、二つの施設の老朽化に始まり、法改正で「子育て世代包括支援センター」の設置が必要になったこと、雨天時や降雪時の屋内遊び場の要望が多かったことなどから、保健・子育て支援複合施設の整備を構想するようになったと言えます。

行政だけでなく、都市計画と保健分野の学識経験者、1級建築士や助産師、市民なども加えて「デザイン会議」を立ち上げ、新しいセンターの機能、規模、立地、建築設計、運営、活用などについて、2年間で18回の会議をもったと聞きました。

場所は、既存の民間商業施設の2フロアを市が買い取り、社会資本整備総合交付金、公共施設等適性管理推進事業債などを活用して整備事業を行ったとか。

健康づくり課・子育て支援課・子ども家庭センターなど行政の一部が窓口と事務室を構え、健診や保育、親子での遊び、と同時に、ワンストップサービスで、相談や手続きが出来る・・・

木材を生かしたフロアの展開にも、視察者一同、感嘆しきり！でした。

フロアの見学をしながら、担当課の方々から丁寧な説明をしていただきました。

なお、北上市内には、このほかにも3ヶ所の子育て支援センターがあります。

詳しくは、冊子「北上市 市民の生活ガイド」に健康・医療・福祉、子育て・教育として、20数ページに渡って、案内されていました。

北上市の担当者、議会事務局の皆様、本当にありがとうございました。

両市の視察で一番に感じ、参考になったことは、

行政のトップや一部門だけで、新しい施設等の事業計画、構想、具体的な運営などを決めてしまうのではなく、都市計画・福祉・保健・食育・子育て等の専門家、現場で事業に関わる職員、市民も巻き込んで、「市民懇談会」「デザイン会議」を、繰り返し行い、事業に反映させていった事・・・でした。

遠野市、北上市それぞれの施設整備事業の経過や内容を、より詳らかに学び、三浦市の今後に、生かしていきたいと考えています。

都市民生常任委員会 視察報告

石崎 遊太

岩手県遠野市（遠野市総合食育センター）

私は令和6年第2回定例会の一般質問において、三浦市の学校給食をテーマのひとつとして取り上げました。老朽化が進んでいる給食センターを今度どのような方向性で整備していくべきかという問題意識があったからです。その流れで他の自治体の先進事例を調べていく中、真っ先に目に入ってきたのが遠野市の取り組みでした。学校給食だけではなく、高齢者への配食サービスや災害時の炊き出しといった多くの機能を有した遠野市の給食センター事例は、三浦市にとっても大切な学びとなることを視察前から確信していました。



施設の概要

- 愛称は“ぱすぽる”（イタリア語の食＝pasto、育む＝porta su を略した造語）
- 平成25年4月に、老朽化が進んだ2つの学校給食センターを統合する形で新設
- 既存施設の統合という給食センター集約化の側面だけではなく、少子化に伴って生じる将来的な施設能力の余剰を見越した上で、下記の機能も備えた拠点整備が行われた
 1. 食育の推進
 2. 地産地消の推進
 3. 高齢者への配食サービス
 4. 災害時の炊き出し
- 学校給食の調理と配送については委託方式で運営
- 高齢者の配食サービスについては遠野市社会福祉協議会が運営しており、市から受託を受けている（自主事業として在宅支援食事サービス事業も展開）
- 熱源はオール電化で、衛生管理はドライシステム（細菌の繁殖を抑えるため床に水を流さない構造）を採用
- 調理キャパは一日あたり学校給食2,400食、総合給食100食
- 市のアレルギー対応マニュアルに基づいた主菜のアレルギー代替食を提供

特に優れていると感じた点

- 市町村合併を経ながらも長い時間をかけて計画を練り上げ、市民懇談会を設置するなど多角的な視点からの意見反映を目指したこと
- 児童生徒が希望したメニューを提供する希望献立の機会がある
- 保護者や市民に対する給食試食会や施設見学を積極的に開催している
- 災害時でも3日間（連続9時間稼働）利用が可能な自家発電設備を有しており、ライフライン復旧までの間に炊き出しを行うことができる
- 食育推進の拠点として、調理実習室を併設した会議室が整備されている
- 遠野市学校給食センターとしてのInstagramアカウントがあり、月の献立内容や実際に提供されている給食写真が毎日アップされている

こどもから高齢者まで、幅広い世代のための設備であることがよくわかりました。遠野市はお米の産地でもあり、地元産のお米を給食で取り入れられることがとても羨ましく感じました。（米飯給食は週4回ほどを占めるそうです）

人口減少が進む中、給食センターに限らずこれからの公共施設整備には集約化やダウンサイジングがどうしても必要になってくる現実があります。そのような厳しい状況下であっても、熱意と創意工夫があればこれまで以上の機能性を確保することも可能であること、そんな希望も感じられた視察となりました。三浦市における今後の給食センター整備において、遠野市が取り組んだ多機能化という側面は非常に参考になるはずです。

岩手県北上市（北上市保健・子育て支援複合施設 hoKko）

今まさに子育てに向き合っている人間の一人として、他市の優れた子育て支援策は非常に気になるところです。子育てのワンストップサービス化に取り組む自治体も増えてきましたが、北上市のhoKko（ほっこ）はその機能性に加え、商業施設と一体型の立地であるところが大きな特徴になります。既存の施設をリノベーションして新しい機能を付与することは、整備の低コスト化という観点ではメリットがある一方で、ゼロから作ることができないために生じるデメリット（設計の難しさや制限）もあったはずです。そのような制約の中で、北上市がどのように合意形成を重ねながら最適解を見出していたのか、そのプロセスに注目しながら視察させていただきました。

施設の概要

- 健康管理センターや保健センターの老朽化が課題となる中で、母子保健法改正による子育て世代包括支援センターの設置が必要となったことに加え、雨天時や降雪時でもこどもが利用できる屋内の遊び場整備が望まれていたため、これらを課題解決と機能強化を一体で目指した
- 市内にある8階建ての商業施設（北上駅から徒歩15分、近くにバス停もあり）の1階と2階部分を市が取得して整備（令和3年4月オープン）

- 複合施設として、保険センター、子育て支援センター、貸館、一時保育、屋内遊び場の5つの機能を有している
- 貸館利用として、会議スペースのほかにレンタルキッチンやイートインスペース、大人数のイベント等に使用できる広場、展示会が可能なホール、スクリーンに上映可能なベンチスペースなどがある

特に優れていると感じた点

- 市民、市職員、学識経験者や有資格者等の全12名で構成されたデザイン会議を2年間で計18回も開催し、細かな意見交換の機会が設けられていた
- 同会議はプロポーザルにより設計事業者が選定された後も行われ、プロポーザル案の確定後も意見反映の機会が確保されていた
- 百貨店が隣の館にあるため、買い物等のついで利用が可能
- 保育士が常駐する地域子育て支援センターと2歳から就学前のこどもが遊べる室内の遊び場（なみなみパーク）が一体的に運営されている
- 一時保育の利用は、最大8時半から17時までと長時間可能なうえ、フルで使ってもおやつ代込みで2,200円（3歳未満の場合）と非常に安価
- 館内利用全般においてWeb予約が可能な運用の徹底
- 建物の構造上1階部分の天井が非常に高く、検診車がそのままビル内に乗り入れられることで特定健診やがん検診の会場としても活用できる
- ビル内に立体駐車場があり館内直結のため、天候に左右されず利用しやすい

特にこどもが使うエリアは商業施設であったことを感じさせない、木材を使ったあたたかみのある内装に仕上がっていました。遊び場の空間は大人でも気になってしまう仕掛けが随所に散りばめられており、こどもにとっては本当に楽しい空間であろうことがよくわかりました。子育てに特化した施設でありながら、カフェや特定健診や展示会スペースといった多世代を巻き込んだ活用が可能な仕様となっているところも素晴らしく、デザイン会議等で市民の声をしっかりと取り入れたからこそその事業なのだと思います。三浦市に今回の事例をそのまま当てはめられるような既存設備はないのかもしれませんが、この整備プロセスは大いに参考にすべきだと感じます。

行政視察報告

下田 剛



一日目は、岩手県遠野市の遠野市総合食育センターを視察しました。このセンターは、平成25年度に開所され、以前の建物が閉所となった後の新たな施設です。名称にあるように、総合食育をテーマにしており、学校給食を提供する一方で、高齢者への宅配サービスも行っています。さらに、災害時には炊き出しも実施しており、自家発電機を備えたオール電化の施設です。その愛称「ぱすぽる」は、イタリア語の「パスト（食）」と「ポルタス（育む）」から取られています。現在、16校に対して配食を行っており、平成17年度の市町村合併の背景があります。

施設内はドライシステムを導入しており、床に水を流さないことで菌の繁殖を防いでいます。また、センサー式の水道やエアカーテンを設置した荷受室など、清潔さが保たれています。地産地消率は69.5%で、米飯給食は週4回（パンは週1回）提供されています。高齢者への配食サービスは1食あたり500円で、週3回まで利用可能です。現在、約30人がこのサービスを利用しています。

三浦市との比較では、残食率が三浦市は8～9%に対し、遠野市では一人あたりの平均残食量が40gであるため、直接の比較は難しいですが、残さないことを前提としていない可能性も考えられます。遠野市は、全国学校給食甲子園で昨年度3位に入賞するなど、優れた取り組みを行っています。その取り組みを知らなかったことを恥ずかしく思いましたが、地産地消を掲げているのであれば、三浦市もチャレンジすべきだと感じました。また、Instagramを活用した情報発信も優れており、SNSの活用方法について行政も学ぶべき点があると感じました。（私自身も学ぶ必要があります。）施設内を見学しましたが、各部門がしっかりと区別され、掃除も行き届いていました。

二日目は、岩手県北上市の「北上市保健・子育て支援複合施設hoKko（ほっこ）」を訪れました。hoKkoの名称は、ho（保健）、K（北上）、ko（子育て）に由来しています。この施設には3つの特徴があります。

1. 利便性が高い立地と設備
2. 子育てのワンストップサービスを実現
3. 徹底したDXの推進

1について、商業施設と一体的に立地しており、「ついでに」利用できる点が特に驚きでした。また、特定健診のバスが3台も施設内に入ることができ、雨や寒い日でも快適に待機できるのが良いと感じました。2については、児童手

当や保育園などの手続きが一箇所で行えるため、近くに市役所があっても便利です。広々としたスペースは保護者や子供たちにとっても安心です。3については、LINEやインスタグラム、YouTubeなどの媒体を積極的に利用しています。視察先がSNS活用に力を入れているのは偶然かもしれませんが、非常に興味深いです。

hoKkoでは一時保育も提供しており、営業時間は月～土曜日の8:30～17:00で、3歳未満は2,200円、3歳以上は2,000円、4時間以内は半額となっており、三浦市と比較してリーズナブルな価格設定です。この価格を業務委託で実現している点も注目です。

二日間の視察を終え、ハード面もソフト面もさらなる向上が必要であると感じました。まずは、SNSを通じて多くの意見や市民の気持ちを集めていくことが重要だと思います。

令和6年度 都市民生常任委員会 行政視察報告

出口 景介

◇遠野市総合食育センターが建設されるまで

平成17年に遠野市と上閉伊郡宮守村が合併することをきっかけに給食センターの整備計画が持ち上がり、当時流行りのPFI手法なども検討されたが、従来通りの整備となった。全体事業費は約13億円（社会資本整備交付金4億、過疎債8億、市費1億）であり、事業整備においては、平成22年に遠野市総合給食センター整備市民懇談会が開かれ、30名の委員が学校給食、食育推進、地産地消、総合給食の4部会体制で21回の会議



などを開催したということが興味深かった。まちの未来のため幾度となく議論を交わした様子は事業計画に表れており、近年の三浦市行政ではここまで多くの会議を重ねることはないと思うので、真にまちのために行動をするなら、時間的制約を言い訳にせず活発な議論を重ねるべきだと鼓舞されたような気がした。

また、事業予算の中の過疎債を私は初めて耳にしたが、三浦市では適用できないものと知り非常に残念だった。

◇遠野市総合食育センターのコンセプト

愛称は「ぱすぽる」でイタリア語の「食」を意味する「pasta」と「育む」を意味する「porta su」を合わせた造語。全国公募326点の中から決定した。この愛称の通り、ただの給食センターではなく総合食育センターであり、大きく

5つの機能を持っていることに注目したい。

① 学校給食

市内小中16校、計1700食を作る。1700食で16校なので1校当たり100人ほどかと思われるが、地域によって在籍数はバラバラ。学校によっては全校生徒30人ほどのところもある。統廃合しないのか？と疑問もあったが遠野市の面積は東京23区と同等であり、学校が一つなくなれば通学負担が大きくなることは容易に想像できた。そう考えると三浦市の大きさはなんてコンパクトなのだと感じた。

② 食育推進

遠野市は運動不足の児童生徒が多いようで、第3次遠野市食育推進計画とおのっこプランには（2）健やかな子どもの成長という項目に肥満について書かれている項目があった。「太るから食べたくない」という間違った認識を正す取り組みや、朝食喫食率を上げる取り組み

③ 地産地消

給食の地産地消目標値は令和5年66.0%。米飯給食を基本としており、パンは週1回とのこと。これらを実施できる背景はやはり遠野市の米生産に地消率アップの最大要因があると思われる。三浦の野菜や海産物と遠野の米を交換したらいいという話も出たが、各地域毎で食糧の提携があるのは地方行政の相互扶助に繋がるのではないかと考えた。

④ 総合給食機能

高齢者の見守りを兼ねた宅配給食は画期的な機能である。遠野市「食」の自立支援事業として社協やボランティアグループと協力して実施している。週3回実施なのは、配食ボランティアさんの高齢化やコロナ後、外出をする高齢者が減り集会所などに集まらなくなったことが原因。

⑤ 災害時炊き出し機能

遠野市は東日本大震災時、周辺被災地への後方支援拠点となり炊き出しで1日14万個の食料を沿岸の被災地へ送った経緯もあり、計画の中に災害時の炊き出し機能を整備した。大規模災害でも3日間利用可能な自家発電設備があり、電気、水道などのライフラインが復旧するまでの間、学校給食調理室内の炊飯設備を利用して炊き出しができるようになっている。

◇その他

- ・「ばすぽる」はオール電化。整備計画の中で多く議論されたが安全面を重視したとのこと。（遠野市の電力インフラは東北電力の原子力発電、火力発電に依存している）
- ・設備は、水道や洗い場等非接触型で設計。水量調整は足で操作できる仕様になっている
- ・給食設備の更新は、調理室の炊飯器や釜、洗い場やフライヤーなど業者ごとパッケージ化されているものが多い。設計段階で業者と打ち合わせしないと器具が入らない、搬入・調理ラインがうまくいかない等支障をきたす可能性

がある。初期段階で業者選定を。

- ・東日本大震災で市庁舎の一部が被災し、市庁舎を建て替えた。まちのショッピングモールと渡り廊下で連結し、市民が買い物に来た際についでに寄れる設計になっている。
- ・遠野市議会は会派ごとの部屋はなく皆大部屋。(17議席) 議場にはモニターが付いており、資料の提示などができる仕様となっている。
- ・栄養教諭が学校給食をinstagramで配信している。学校給食に関心を持ってもらう取り組みとして良い。三浦市でもすぐに真似できるはず。三浦の給食、もっと誇ってもいいはず。
- ・遠野の給食は全国学校給食甲子園でグランプリを取っている。三浦も応募してみるのはどうだろうか…

◇遠野市について

柳田國男の「遠野物語」の舞台であり、駅前には遠野の赤河童のモニュメントがある。一目で、このまちのシンボルがわかるのは羨ましい。三浦にもマグロと野菜のシンボルがあれば…



◇北上市hoKkoについて

JR北上駅から車で5分、北上市役所から徒歩5分圏内の商業施設内に社会資本整備総合交付金、公共施設等適正管理推進事業債など合計約16億円で整備。商業施設全体は7階建てのビルで、そのうち1～2階を4億で取得、実施設計に6000万、整備工事に9億円ほどかけている。

この施設は保健センター、屋内遊び場、子育て支援センター、一時保育など様々な機能を兼ね備えており「ほけん」「きたかみ」「こそだて」の頭文字をとって「hoKko」という名称になっている。3～6階が立体駐車場になっていること、商業施設と隣り合っている事など、立地条件がよい。また、子育てのワンストップサービスをうたっており、乳幼児健診、児童手当・保育園の手続き、子育て教室、相談がすべてhoKko内で完結できる。

① ほっこひろば

特定検診車（バス）が入れる間口があり、中で特定検診やがん検診が実施できる。野外イベントの雨天時の代替地などにも活用され、にぎわいの創出場となっている。この広場にはカフェもある。車両がそのまま入れるのは画期的！

② ふれあいホール

大きなガラス張りの部屋、開放することもでき、ほっこひろばと連動可能。美術展など展示やイベントホールとして使用できる。フラットなので設営次第で多延的に使えるのが良い。

③ おやこセンター

おやこで遊べる場所。保育士と子育てコンシェルジュが相談に乗ってくれる場所。

④ なみなみパーク

親同伴がルール。最大30人まで。2時間の利用まで。安全面は特に配慮していないように感じたが今までトラブルは無し。親同伴が原則という理由が頷ける。上る降りる、踏ん張る、掴むなど身体発達に必要な動作が自然に発生する場所。何より、室内で全天候型というのが良い。

⑤ ほいくルーム

年間委託1000万。事前の利用者登録が必要。買い物や用事で子どもを預かってほしいときに使える場所。このような場所、三浦にもニーズはあるはずなのだが…

⑥ 他にも、もぐもぐキッチン（料理教室・食育）、けんしんホール（子ども検診用・子ども教室等）、ほっこオフィス（健康づくり課、子育て支援課、子ども家庭センター）、まなびルーム（学習室）、様々な設備が整っている。

◇hoKko全体を見て感じたこと

- ・ ビルの2フロアを購入して整備したことで、商業施設に用事があるついでに来れる、など「ついで」利用ができるところが魅力。駐車場も立体があるので便利と思ったが、北上市民からするとそもそも立体駐車場に抵抗があるようで、周辺の駐車場に停める人が多いらしい。
- ・ かなりデザインに富んでいる。波板を随所に使用して多くのビスを使って止めているが、天井部も覆っているので、LED照明の交換など、メンテナンス性は低い様子。また、ビルメンテナンスが入っている関係で空調などは各部屋ではなくビルの一括管理。我々が訪れた日は暖かったが、真冬の1階ガラス張りのほっこひろばなどはどんな感じなのか気になった。
- ・ 子育て支援施設は近年爆増しているが、こちらも市内の財産利活用と相まって効果的に設置されているように感じた。三浦市にも、空いてしまった施設、店舗などが多数見受けられるのでうまく行政が民間から取得・借り上げることで賑わいの創出ができるのではないかと考えた。
- ・ 子育て世代をメインターゲットにしたLINE、instagram、youtubeなど広報関

係にDX推進で力を入れている。

◇北上市について

北上市は人口約9万人のまち。現在は半導体産業に力を入れている。まちが発展する条件である、空港、新幹線、高速道路を兼ね備えているまちで北上市以外には仙台と広島しかないらしい。



令和6年度三浦市議会 都市民生常任委員会行政視察報告

森谷 久一郎

1 岩手県遠野市

テーマ 遠野市総合食育センターについて

○施設概要について

同センターは平成25年4月に開所し運営を開始した。建築にかかる総事業費は13億円で、社会資本整備交付金4億円・過疎債8億円等を財源としている。

学校給食センターと総合食育センターの機能を併せ持ち、延床面積が2,256.89㎡と広い施設に市内16の小中学校の給食を供給するほか、高齢者向けの宅配弁当や通所施設への宅配弁当の供給等を行っている。

オール電化方式の導入や、衛生面・安全面に配慮した調理システムを採用し、調理作業が効率的かつ快適に行えるよう工夫されている。

○施設運営について

学校給食の運営は、調理・配送とも同一業者に委託して実施しており、高齢



者向け宅配サービスは、遠野市社会福祉協議会（ボランティアグループ ほのぼの会）が運営している。

行政からは、市職員 2 名と県職員の栄養教諭 2 名が配置されている。

○課題

- 建築後11年を経過し、設備の更新や修繕が増えつつある。
- 地産地消について66%を目標としているが、令和5年度実績では55.6%と逡巡傾向にある。
- 少子高齢化の影響を受け、給食の供給数が減少傾向にあり、栄養教諭の配置数にも影響が出始めている。
- 高齢者向け宅配弁当の担当するボランティアの高齢化により、提供可能数が減少している。

○三浦市での応用について

三浦市の給食施設は三崎・南下浦に2箇所あるが、いずれも施設の老朽化が進み、近い将来には建替えが必要になる。

遠野市総合食育センターの建築は平成17年の市町村合併を機に具体化したようだが、本市においても、一定の規模が確保できれば、1箇所に統合して遠野市方式の給食施設を建築して運営するほうが効率的であると考ええる。

財源確保が課題だが、各種交付金・補助金をフルに活用し、市の負担を最小化するよう工夫が必要である。

2 岩手県北上市

テーマ 北上市保健・子育て支援複合施設ほKkoについて

○施設について

市の中心市街地の既存商業施設の2フロアを市が買い取り、改修して保健・子育て施設としてスタートした。

商業施設の別棟と隣接し、渡り廊下でつながっており、立体駐車場もあるので利便性は高い。

整備事業費は約16億円で、社会資本整備総合交付金や各種事業債等を財源とした。

以前の健康管理センターや保健センターが老朽化していたことや、子育て世代包括支援センター設置の必要性、雨天時・降雪時にこどもが利用できる室内遊び場設置の要望等により、これらの機能を備えた複合施設を整備した。

こども関係の諸手続きが集約され、利用者の利便性を確保している。

1階は、オフィス・こどもけんしんルーム・保育ルーム・親子センター（屋内遊び場）等を配置し、2階はキッチンや多目的に使用できる広場やホールを配置。1階は検診車が入れる大型の入口を設置し、北国ならではの仕様となっている。

○各部屋・スペースについて

全体を見学させていただいたが、大型の施設だからこそ設置できる大型遊具や、こども専用の健診ルームがあり、子育てや健康管理に必要な様々な機能を確保している。

原則、事前予約しての利用となるが、一時保育は予約せずに利用可能。

また、検診車が屋内に入れるのは、大変ユニークと思われた。

○課題

- こどもの利用は小学校2年生までであり、もっと上のこどもが利用可能な場所がない。
- 医療費関係の手続きや、戸籍関係の手続きは市役所本庁舎で行うことになり、完全にこども関係手続が集約されてはいない。
- 商業施設の2フロアに入居しているため、共益費・修理費等の負担金支払義務があり、年々増額している。

○三浦市での応用について

三浦市には北上市のhoKkoのような施設はないが、子育て支援に機能する施設として、ぜひ新設したいと思う。若い世代の移住促進にも効果がある。

適当な場所の確保、予算の確保などの大きな課題があるが、長期的な視点でこのような施設整備を総合計画に盛り込むなど、検討すべきと考える。